

授業概要

子どもたちは生活の中で感じたことや感動したことを全身で表現しようとする。造形の指導者として、子どもの表現を受け止め・共に楽しみ・そして感性を高めるように、子どもの造形表現を発展させていきたい。

本講義では、造形表現にかかわる発達の理解を深め、援助ができる実践的な力を習得。現場で用いられる様々な造形活動を楽しむことから始め、子どもたちへの適切な援助・配慮について指導する。

模擬保育や指導案を通じて、子どもの多様な表現にも対応できる、応用力のある指導者をを目指す。

授業計画

第1回	模擬保育（新聞紙を使ったファッションショー）
第2回	造形表現の基本と展開（材料、用具について）
第3回	様々な造形表現の世界（色の三属性、色相環について）（吹き絵）
第4回	様々な造形表現の世界（紙版画1:型紙について）
第5回	様々な造形表現の世界（紙版画2:刷りについて）
第6回	様々な造形表現の世界（紙粘土の特性）
第7回	様々な造形表現の世界（芯材を用いた粘土制作）
第8回	造形表現の発達段階（なぐりがき期～図式期）
第9回	環境構成（立体的な壁面制作-①春夏）
第10回	環境構成（立体的な壁面制作-②秋冬）
第11回	模擬保育と指導案（廃材を用いた題材設定）
第12回	パネルシアターの歴史と物語の選定
第13回	パネルシアターの下絵と製作
第14回	パネルシアターの彩色と仕掛け
第15回	パネルシアターの舞台設定と演出
第16回	課題のまとめ 発表会

到達目標

- ・保育・教育者としての造形活動を支援、指導する為の知識や基礎となる技能を習得する。
- ・人・モノ・環境等様々な対話を通して主体的になって、造形活動に取り組むことができる。
- ・子どもの造形表現・描画における発達段階の理解を深める。

履修上の注意

- ・造形活動で用いられる様々な材料・用具（ポスターカラー・画用紙・紙粘土等）は、各自が準備することになる。授業内で随時伝えていく。
- ・学外講師を招いて講演を開くことも予定。

予習・復習

子どもの絵を読み解くためには、学生自身が感性を豊かにし、造形力を育てるための努力と様々な経験が必要である。授業に主体的に取り組み、空き時間などをも利用した継続的な学習意欲・態度を期待する。

評価方法

個人・共同製作における持ち物の準備（20%）。作品の期限内における提出の有無と内容（40%）。学習態度、協調性（40%）

テキスト

パネルシアターの教材費（約2,000円）が別途必要である。詳細については授業の中で説明致していく。テキストは一年時に購入のものを再度使用予定。